

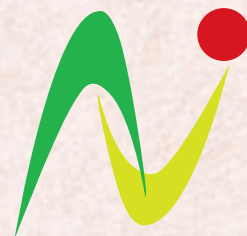
# なかがわ

広報

2016.12



町のイメージキャラクター  
「なかちゃん」



No.135

- インフルエンザ・流行性胃腸炎予防について 2
- 民生委員児童委員が改選 4
- 馬頭西小学校統合に係る保護者説明会について 6
- 平成28年度全国学力・学習状況調査並びに  
とちぎっ子学習状況調査結果の概要 7
- 町政懇談会を開催 8



きらきらベビークラス

## 企画展 「青木コレクション展 蘇峰と藤作」



第135回

しんしんと雪が降り積もる深川木場。「丸鉄」と版元を大きく書かれた傘をさす大工が、雪が積もって真っ白な材木置き場を横に歩いて行きます。大工が右手に持っているのはふぐと酒樽。寒い夜にふぐで一杯飲むのでしょうか。

本図は明治の浮世絵師・小林清親が明治17年に手掛けた「武蔵百景」のシリーズの一つで、深川木場を描いたものです。ここは大規模な材木置き場があり、江戸で使われる材木の大半は水路を通して運搬されました。木場はもともと材木置き場という意味であり、現在に残る「木場」という地名の由来です。通常、材木は筏状にし、水路を通して運搬する為、河口に設置され、海運で代表的な材木は秋田杉や吉野杉、木曽檜、天竜杉、天竜檜と東北から近畿にかけての材木が集まりました。また木造住宅が密集する江戸は火災被害が特に重大であり、復興で重要になる材木置き場は中心地から外れ、尚且つ水運が発達した地に設置する必要がありました。江戸の材木置き場は元々日本橋界隈にありましたが、寛永18年(1641)に火災防止を理由に隅田川東岸へ移転しています。

本図を描いた清親は、西洋の画風を取り入れた「光線画」を発表していました。ですが「武蔵百景」では、歌川広重の「名所江戸百景」を意識し東京の原風景を描いた錦絵を発表し、本図も広重の「名所江戸百景 深川木場」に似た構図やモチーフで描いています。冬の展覧会でご紹介する青木藤作によるコレクションは、江戸から昭和にかけての作品が多く、日本の古き良き文化を楽しむ藤作の姿を思い起こさせます。江戸の心象風景を意識した清親の「武蔵百景」シリーズは藤作にとって魅力的に映ったのかもしれない。

馬頭広重美術館 学芸員 山内 れい



「武蔵百景之内 深かわ木場」  
小林 清親

### 【会 期】

企画展「青木コレクション展 蘇峰と藤作」  
～平成29年1月15日(日)まで

### 企画展

「浮世絵で楽しむ源氏物語 -「修紫田舎源氏」の世界-」  
平成29年1月20日(金)～3月5日(日)

【開館時間】午前9時30分より午後5時まで  
(但し入館は午後4時30分まで)

【休 館 日】月曜日、祝日の翌日

【入 館 料】大 人 500円(450円)  
高・大学生 300円(270円)

※( )は20名以上の団体料金。

※中学生以下は無料。

※障がい者手帳等をお持ちの方・付き添い1名は半額

### 【年末年始の閉館日】

12月26日(月)～平成29年1月2日(月)

### 美術館ボランティア募集

浮世絵や美術館に興味のある方、ボランティアに参加してみませんか。

募集対象 18歳以上の方

活動日 半日または1日単位で活動

問い合わせ 馬頭広重美術館 ☎0287-92-1199

## 平成27年度那珂川町観光写真コンテスト受賞作品



入選「異空間」 撮影者：飯田 正広さん(常陸太田市)



夕焼け賞「朝焼け」 撮影者：杉本 静さん(片平)

